

■建学の理念・精神

本学は、孔子の教えに基づく儒学を建学の精神としており、そのうえで「行義以達其道（義を行いつつその道に達す）」を学是とし、「大和のこころ」を養うことを学生の本分としている。すなわち義を行ない道理にかなった正しい道を歩むこと、そして真理に基づき平和と繁栄の道を模索することこそが本学の理念であり、この義と和こそが本学を支える基本精神となっている。

（ホームページ参照）http://www.shk-ac.jp/ijc/info_education_founding.html

■使命と目的

『本学は学校教育法の趣旨に従い、あわせて本学創立者の建学の精神を体し、もって地域文化並びに幼児教育及び社会福祉・児童福祉の向上に寄与せんとする人材の育成を目的とする。』（学則第2条）

（教育目的）

子どもの目線に立ち一人ひとりの行動と能力、心理を正しく理解するとともに、個性に応じた適切な指導と助言を与えることができる幼稚園教諭並びに保育士の養成を目的とする。

■教育研究上の基本組織

①学科名称と構成

大学等	学科・課程
いわき短期大学	幼児教育科

②学科の特色「幼児教育科の学修成果」

本学は、建学の精神に基づき、幼児教育科の教育理念・教育目的となる条文を学則第1章第2条に定め、建学の精神、教育の理念、教育目的・目標を踏まえ、学修成果において本学が目指す人物像として、以下の通り定めている。

1. 理性的で何事にも積極的に責任感をもって対処できる。
2. 愛情と親切に富み、常に相手の立場を考え、他者より信頼される。
3. 研究心旺盛で常にそれを深めるとともに、各種の技術を身につけ、適切に指導できる。
4. 人間性豊かにして常に公平な心を養い、労苦を厭わず常に保育の目的及び目標を深く理解し、一人ひとりに行き届いた支援ができる。
5. 専門職取得の有無に関わらず、常に公共心を高めるとともに、地域の発展に寄与できる。

■教員組織、教員数、教員の業績等

①教員数、専任教員と非常勤教員の比率（令和4年5.1現在）

学部	専任教員数 (A)		非常勤教員数 (B)		比率 専任：非常勤
	男	女	男	女	
幼児教育科	6	6	6	14	3：5

②専任教員の職位（令和4年5.1現在）

学 科	専任教員					非常勤 教 員
	教授	准教授	講師	助手	計	
幼児教育科	4	4	4	0	12	20

③専任教員の年齢構成

(令和4年5.1現在)

学 部	30 歳以下	40 歳以下	50 歳以下	60 歳以下	61 歳以上	計
幼児教育科	0	1	5	4	2	12

④教員が有する学位及び業績

http://www.shk-ac.jp/ijc/department_child_teaching_staff.html

⑤専任教員の職位と担当科目

(令和4年5.1現在)

教員名	職名	職位	学位	専門分野	主な担当授業
田久昌次郎	学長顧問 教務 委員長	教授	博士	歯学臨床系	子どもの保健、地域防災計画学Ⅰ・Ⅱ、論語と教育
佐野法子	特任	教授	修士	臨床心理学	子どもとお話 A・B、乳児保育ⅡA・ⅡB、子育て支援 A・B、保育内容指導法（言葉）A・B
福井朗子	学科長	教授	博士	教育学	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、教育原理、教育課程総論、教育方法論、教師論、保育・教育実践演習（幼稚園）、クラスゼミⅠ・Ⅱ
森下 剛	キャリア 委員長	教授	修士	発達心理学	教育心理学、大人の発達心理学、発達心理学Ⅰ、子どもと人間関係 A・B、人間力とキャリアⅠA・ⅠB、クラスゼミⅠ・Ⅱ、教育実習、教育実習指導
鈴木隆次郎	学生 委員長	准教授	学士	社会福祉学	教育実習、教育実習指導、地域の福祉、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保育・教職実践演習（幼稚園）、クラスゼミⅠ・Ⅱ、ボランティア演習
長瀬 賢弘		准教授	博士	音楽	器楽演習Ⅰ・Ⅱ、器楽演習ⅠA・ⅠB、保育実習指導Ⅰ、幼児音楽 A・B、クラスゼミⅠ・Ⅱ
松井 素子		准教授	博士	美術	子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ、心理学、教育相談法、発達心理学ⅡA・ⅡB、クラスゼミⅠ・Ⅱ、保育内容指導法（人間関係）A・B
野内 友規	学術情報 委員長	准教授	博士	障害科学	子ども家庭支援論、社会的養護Ⅰ、心理学、教育相談法、発達心理学ⅡA・ⅡB、クラスゼミⅠ・Ⅱ、保育内容指導法（人間関係）A・B
中村 知子		講師	準学士	情報リテラシー関係	情報基礎演習
中川 希望		講師	修士		スポーツ（講義・実技）A・B、子どもの健康と運動 A・B、人間力とキャリアⅠA・ⅠB、保育・教育実践演習（幼稚園）、保育内容指導法（健康）A・B、クラスゼミⅠ・Ⅱ
綿引 清勝	障害学生支援 委員長	講師	修士	体育学	特別支援教育 A・B、子ども家庭福祉、クラスゼミⅠ・Ⅱ
斎藤 紀子		講師	準学士		教育実習、教育実習指導、保育内容指導法（環境）A・B

■入学、卒業、修了及び進路の状況

①入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

〈幼児教育コース〉

- 1) 本学の建学の精神・教育目的を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- 2) 子どもに愛情を持ち、保育者を目指して努力している人
- 3) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

〈キャリアコース〉

- 1) 本学の建学の精神・教育方針を理解し、本学で学びたいという強い意欲を持っている人
- 2) 幼児教育をベースとした教育分野に興味を持ち、福祉や経済など地域の社会活動に関心を持っている人
- 3) 高等学校で履修した学習内容について理解し、主な科目の基本的な知識と学習経験を有している人

【幼児教育科入学までの学習】

高等学校卒業までになされる幅広い学びと豊かな経験は、本学での学びの基盤となります。幼児教育科（幼児教育コース・キャリアコース）における専門教育は、高等学校での教育内容を理解していることを前提に行います。したがって、高等学校卒業までに下記の学習経験を身につけることが望ましいと考えています。

国語：基礎的な読解力と表現力、思考力などのコミュニケーション・スキル

地理歴史・公民：科目における基礎的な知識および社会事象に対する関心

数学：基礎的な数学の知識と計算力

理科：自然や科学の基本的な知識や好奇心

外国語：リスニングおよび文法に関する基礎的な知識

芸術：音楽、美術などの基礎的な技能と表現力

保健体育：保健・衛生に関する基礎的な知識と健康な生活を営む力を有し、健全な心と体を持つ

保育・福祉の学び：家庭科などでの関連する基礎知識とボランティア活動の実践

②入学者数、専任教員一人あたりの学生数

（令和4年.5.1現在）

学科	入学者の状況		在学生の状況		専任教員一人あたりの学生数	収容定員充足率
	定員	入学者数	定員	在学生数		
幼児教育科	100	63	200	127	10.6人	63.5%

③社会人受入数、留学生数、留年者数

（令和4年.5.1現在）

学科	社会人数	留学生数	留年者数
幼児教育科	1	0	0

④入学者の推移

（令和4年.5.1現在）

科	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
幼児教育科	76	74	72	64	63

⑤退学者数、除籍者数、中退率、海外派遣 (令和3年度実績)

学科	退学者数	除籍者数	中退率	海外派遣数
幼児教育科	1	0	0.79%	0

⑥卒業・修了者数、学位授与数、進学者数、就職者数 (令和3年度実績)

学科	卒業・修了者数	学位授与数	進学者数	就職者数
幼児教育科	65	65	5	57

⑦進路状況 (令和3年度実績)

学科・ 課程	卒業生 数	就職希 望者数	進学者	その他	就職率	進 路 状 況				
						認定こ ども園	幼稚園	保育園	施設等	一般企 業
幼児教 育科	65	57	5	3	100%	7	14	28	7	1

⑧主な進路先

http://www.shk-ac.jp/ijc/career_job_date.html

■授業科目、授業の方法・内容・計画

教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

幼児教育コース

- (1) 実習時期、科目の教授内容を念頭に置いた科目配列の順序性への配慮
- (2) クラスゼミなどによる少人数教育による個別化された教育
- (3) 実習事前事後指導の充実とその中での体験学習による実践力の向上
- (4) 履修カルテ作成による自己の課題の明確化と教職・保育実践演習での確認と補強

キャリアコース

- (1) 教養・専門科目を複合的・分野横断的に学び、専門的な学習に繋がる知識や技能と社会人基礎力 (リテラシー・コンピテンシー) の習得
- (2) 少人数教育による個別・具体的な教育
- (3) 幼児教育に関連する免許・資格については、希望選択制
- (4) 卒業後の進路希望に応じた履修モデル提示とキャリア教育の実施

「幼児教育科の学修成果」(2コース共通)

(基礎的・汎用的能力)

- ①人間関係形成能力: 人間関係に配慮した言動を心がけることができる。相手の気持ちに寄り添って話を聞き、自分と異なる考えや価値観を受け入れることができる。
- ②社会形成能力: 割り当てられた役割を、自分なりに工夫しながら取り組むことができる。チームで課題に取り組む際には、自ら情報発信したり雰囲気づくりをするなど相手の立場やチームへの貢献を考えて行動することができる。
- ③自己理解能力: 覚えた知識や技術は、すぐに身につくよう努めている。何かに取り組む際には自発的に行動し、難しいことでも臆せず常に向上心を高めることができる。

④課題対応能力：様々な情報を正しく収集・分析し、想定される課題を自ら発見し、その課題に対して、自分なりに具体的な目標や計画を立てることができる。事前にリスクを想定し、目標や計画の実現性を吟味することができる。

⑤キャリアプランニング能力：自分なりに試行錯誤しながら自身の役割や働くことの意義を見出そうと努めることができる。その中で主体的に将来設計や進路選択をすることができる。

【専門的能力】

⑥理解力・表現力：科目の内容を理解し、適切に表現することができる。

⑦応用力・指導力：科目で学んだ内容を応用し、適切な指導・助言をすることができる。

【学則】

http://www.shk-ac.jp/ijc/info_outline_rule.html

【令和4年度カリキュラム表】

●幼児教育科 <学則第27条別表(一)>

http://www.shk-ac.jp/ijc/img/department/child/curriculum/pdf/curriculum2022_01.pdf

【令和4年度シラバス】

●幼児教育科

http://shk-ac.jp/ijc/department_child_curriculum.html

【令和4年度学年暦】

●幼児教育科

http://shk-ac.jp/ijc/campus_life_calendar.html

【履修モデル】

学科等	修業 年限	必要修得 単位数	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な 学位
			科目区分	必修	選択	合計	
幼児教育科	2年	62単位	教養科目	5単位	9単位以上	14単位以上	短期大学士
			専門科目	13単位	35単位以上	48単位以上	
			計	18単位	44単位以上	62単位以上	

■卒業・修了の要件及び取得学位等

①卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

■幼児教育コース

常に探究心に富み、相手の立場を考えられる公平な心を持ち、何事にも理性と責任を持ってあたれることを保育者の理念として、子ども一人ひとりの行動と、能力、心理を正しく洞察し、個性に応じて適切な指導と助言を与えることのできる幼稚園教諭及び保育士の養成を行っているが、社会人として、また家庭人としての円満な人格形成も目指している。

このため、建学の精神である儒学に関する教養科目や学科の特性を活かした専門科目の中から卒業のために必修の科目を設定して卒業認定し、地域社会に貢献できる人材育成を目指している。

幼児教育コースでは、62単位以上の単位修得と必修・免許資格等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

■キャリアコース

現代社会における多様な課題に対して多面的な視点から分析・解決する能力と相手の立場を考えられる公平な心を持ち、自らの人格を高めることのできる能力を身につける。このため、本学の建学の精神である儒学の教えを十分に理解し、教養科目や教育・福祉・経済に関する専門科目を複合的に学び、社会人として必要な知識・技能を有し地域に貢献できる人材育成を目指している。

キャリアコースでは、62単位以上の単位修得と必修等の要件を充たし、前述の学修成果を修得した学生に卒業を認定し学位を授与する。

②取得可能な免許及び資格について

http://www.shk-ac.jp/ijc/departament_child_career.html

③学位授与・授与率（令和3年度実績）

学 部	卒業者数	学位授与数	授与率
幼児教育科	65	65	100%

■学生生活及び就職支援について

教務部・学生部

専門の部署として教務部・学生部が設置されている。教務部では、主に学生の履修等に関する入学・休学・退学・卒業に関する事務・支援や授業及び卒業に関する事務・支援を行う。学生部では、学生生活を円滑に送れるように支援を行う。主に奨学金に関する事務・支援や学生証、学生定期、学割等の発行に関する事務・支援を行う。

本学の特徴は、全ての各学年においてゼミが必修となっており、学生は何らかのゼミに所属している。各ゼミが中心となり、教務部・学生部も履修からはじまる学修指導や生活相談を行っている。

http://shk-ac.jp/ijc/campus_life_support_procedure.html

キャリアセンター

学生ひとり一人の将来の進路や人生における働き方や生き方を考え、目先の就職という“点”で考えるのではなく、人生の終焉までの“線”を通して考えてもらう支援をしております。具体的な実施内容として、下記の活動を行っております。

1. ゼミを中心とし、学生、保護者、大学が三位一体となった新しいキャリア教育体制を築く。
2. ゼミ担当者がキャリアセンターと連携し、各年次に応じたキャリア教育のアドバイザーとなり、キャリアに関する各学年のゼミ会議を開催すると同時に、保護者会等を通じて保護者への情報提供と連携を行なう。
3. キャリア講座および資格講座の充実を図る。
4. キャリアセンターにおいて求人開拓、キャリア教育、インターンシップ、就職相談、教員に対するキャリア教育等、キャリア関連の各種業務を企画・統括する。
5. キャリアセンターにおける情報システムの整備、ならびにキャリア・アドバイザーの活用を行なう。

http://shk-ac.jp/ijc/career_guide.html

保健管理センター

保健管理センターは、学生・教職員の健康の保持増進を図るため、定期及び臨時の身体測定、健康診断、並びに救急処置、各種健康相談（メンタルヘルス等を含む）、保健指導、健康教育、環境衛生及び感染症の予防についての指導等、その他健康の保持増進についての必要な業務をおこなうところです。そのために、簡単な測定検査用具・救急処置薬品・衛生器材・休養ベッド等が設置されています。

http://shk-ac.jp/ijc/campus_life_support_health.html

学生相談室

本学学生・教職員の身体的な健康・心の悩み等さまざまな各種健康相談やメンタルヘルスの支援にしています。

■その他の教育研究上の情報

①海外の諸学校との協定状況 現状での協定学校はない。

②社会貢献活動

本学は、「地域連携」を大学の理念とし、地域に信頼され愛される大学、地域に開かれ貢献できる大学を目指している。そのために、大学として、より地域に密着し、市民の目線に立った理論や政策の研究と発信を展開し、学生とともに地域交流・連携活動を一層充実させることを運営方針に掲げ、様々な事業を推進している。

(1) 高大連携プログラム

「高大連携プログラム」大学と高等学校の間で協定書を締結して長期的な相互交流）は、高等学校サイドの勉強動機不足、あるいは安易な資格取得志向などの悩みと大学サイドの優秀な学生の確保や高い勉強意欲を持つ学生の確保などの悩みをも同時に解決するためのもので、その実施状況は下表のとおりである。

対象高等学校名	内 容
東日本国際大学附属 昌平高等学校	－高校生が本学の授業を大学生と一緒に履修するという形態 －当該生徒が本学に進学した際には、本学の単位（事前修得単位）として認定
県立平商業高等学校	－高校生が大学に出向く形態 －単位は高校側でのみ認定
県立いわき総合高等学校	－本学教員が高校に出向いて授業を行う形態 －単位は高校側でのみ認定

(2) 市民を対象としたプログラム

プログラム名	内 容
いわき短期大学子育て 支援事業〈通称：つどいのひろば〉	いわき駅前再開発ビル（ラトブ）で、幼児教育に関する大学等の知力を市民に提供している。
ふれあい出前講座	高校生を含む市民を対象に、求めに応じて本学教員が出向いて講義を行うもの（無料、単位認定なし）。
論語素読教室	毎週土曜日に学内の大成殿において一般市民と本学教員も関与した素読会。学生も参加できる。
昌平図書館開放	市民開放として、平日は午後7時、土曜日は午後1時まで開館。現在、いわき市内図書館（大学、高専及び市立）間ネットワーク利用が可能となっている。

保育者研修会	従前より毎年実施してきており、定着している。内容については、アンケート結果を基に毎年検討し直しているが、好評である。また実施内容と結果について、毎年いわき短期大学研究紀要に活動報告としてまとめている。
--------	--

<いわき短期大学子育て支援事業の概要>
“つどいのひろば”

内容	曜日・時刻	会場
預かり保育（短時間）	日曜日：10－16：00	いわき駅前 “ラトブ” セミナー室等
育児、発育に関する個別相談	日曜日：10－16：00	
来場幼児への演示（絵本の読聞かせ、手遊び）	日曜日：10－16：00	

(3) 教員免許状更新講習 http://www.shk-ac.jp/ijc/info_community_license.html

(4) 地域ボランティア活動 http://www.shk-ac.jp/ijc/info_community_volunteer.html

【大学と地域社会との協力関係構築】

地域貢献は本学の重点政策のひとつである。これを円滑に推進するため、「生涯教育研究所」を設置し、地域との交流や連携の企画、制度設計、事業実施等を行っている。

平成 30（2018）年 1 月から、福島工業高等専門学校と連携協定書を結び、東日本大震災により被災した福島県とその周辺地域の復興支援及び福島浜通り地域等に新たな産業の創出を目指す福島イノベーション・コースト構想の推進に資するため、教育・研究分野における緊密な連携・協力関係を構築している。

平成 30（2018）年 3 月から、大正大学との連携協定書を結び、地域社会の振興・創世及び東日本大震災により被災した地域の復興に寄与するために、教育・研究・社会貢献分野における緊密な連携・協力関係を構築することに合意している。

■校地・校舎等（学生の教育研究活動の環境）

キャンパスの所在地	〒970-8567 福島県いわき市平鎌田字寿金沢 37
主な交通手段	常磐線いわき駅下車
キャンパスの概要	【キャンパスマップ・アクセスマップ】 (http://www.shk-ac.jp/ijc/info_access_access_map.html)

運動施設の概要	運動場（東日本国際大学と共用） 本学には、キャンパスに附設して第一運動場(鎌田石名坂)、弓道場、柔道場がある。 体育館（東日本国際大学と共用） 本学における体育館は、体育の授業のほか、部活動に利用されている。 これらの運動場施設の規模と用途は以下の通り <table><tr><th>施設名称</th><th>用 途</th><th>面 積 m²</th><th>備 考</th></tr><tr><td>第一運動場</td><td>一般運動場</td><td>6,127.5</td><td></td></tr><tr><td>第二運動場</td><td>野球場・サッカー場</td><td>53,972.57</td><td></td></tr><tr><td>鬘道館</td><td>柔道場</td><td>836.4</td><td>330 畳</td></tr><tr><td>屋内野球練習場</td><td>野球</td><td>1,851.08</td><td></td></tr><tr><td>弓道場</td><td>弓道</td><td>97.78</td><td></td></tr><tr><td>体育館</td><td>授業・部活動</td><td>1,694.4</td><td></td></tr></table>	施設名称	用 途	面 積 m ²	備 考	第一運動場	一般運動場	6,127.5		第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57		鬘道館	柔道場	836.4	330 畳	屋内野球練習場	野球	1,851.08		弓道場	弓道	97.78		体育館	授業・部活動	1,694.4	
施設名称	用 途	面 積 m ²	備 考																										
第一運動場	一般運動場	6,127.5																											
第二運動場	野球場・サッカー場	53,972.57																											
鬘道館	柔道場	836.4	330 畳																										
屋内野球練習場	野球	1,851.08																											
弓道場	弓道	97.78																											
体育館	授業・部活動	1,694.4																											
課外活動の状況	学生自治会は学生の自治組織として「いわき短期大学学生自治会規約」に則り自発的に活動している。自治会の主な学内行事は学園祭、いわ短祭、謝恩会である。10 月に行う学園祭（「鎌山祭」と称する）は、四年制大学と共に実行委員会を組織し、二日間の日程で一般公開を行っている。ゼミ、サークルが中心となるが、ほぼ全員の学生が参加し、1 年間の研究成果の発表と模擬店、交流イベントなどを行っている。11 月には学生、教員の親睦を深めることを目的に「いわ短祭」が行われる。また、3 月には卒業式後に「謝恩会」を開催している。 クラブ活動は、運動系、文科系のクラブ、サークルなどがあり、学生は活発に活動している。クラブ、サークル活動は自治会規約によって定められている。 <table><tr><th>運 動 系</th><th>文 化 系</th></tr><tr><td> ・弓道部（強化指定部） ・バレーボール部 ・ソフトテニス部 ・フットサル部 ・バスケット部 ・テニスサークル </td><td> ・わたぼうし（ボランティア） ・軽音楽部 ・吹奏楽部（強化指定部） ・ホームメイド愛好会 ・会話サークル ・合唱部 </td></tr></table>	運 動 系	文 化 系	・弓道部（強化指定部） ・バレーボール部 ・ソフトテニス部 ・フットサル部 ・バスケット部 ・テニスサークル	・わたぼうし（ボランティア） ・軽音楽部 ・吹奏楽部（強化指定部） ・ホームメイド愛好会 ・会話サークル ・合唱部																								
運 動 系	文 化 系																												
・弓道部（強化指定部） ・バレーボール部 ・ソフトテニス部 ・フットサル部 ・バスケット部 ・テニスサークル	・わたぼうし（ボランティア） ・軽音楽部 ・吹奏楽部（強化指定部） ・ホームメイド愛好会 ・会話サークル ・合唱部																												

【施設設備整備】

本学は、J R常磐線いわき駅より徒歩 15 分の閑静な小高い鎌田山に併設している東日本国際大学とともに立地しており、キャンパス設備の殆どはこの地に、あるいは徒歩可能な範囲に弓道場、柔道場、第一運動場と学生駐車場が整備されている。また離れて設置されている主要な関連施設は、野球場・屋内野球練習場並びにサッカー練習場（第二運動場）である。校舎・校地の大学設置基準面積との対比は下表の通りである。

・校舎／校地一覧表

	収 定 員 人	校舎			校地		
		基準面積 ㎡	現有面積 ㎡	差異㎡	基準面積 ㎡	現有面積㎡	差異㎡
東日本 国際大 学	820	6,196.85	11,969.15	5,772.30	8,200	87,106.46 (大学と共用)	76,906.46
いわき 短期大 学	200	2,350	3,559.14	1,209.14	2,000		
計	1,020	8,546.85	15,528.29	6,981.44	10,200	87,106.46	76,906.46

校舎は1号館から5号館までに分かれており、本学は主に5号館を使用している。5号館には、講義室のほか、ピアノ演習室及び自習室、コンピュータ演習室、図画工作室、さらに幼児用の机・椅子等を整備した模擬保育室、四面黒板及び備付A V機器等を整備したラーニングコモンズ室・アクティブラーニング室が設置されている。また、孔子の教え「儒学」を建学の精神としている本学では、1号館屋上に孔子廟である湯島聖堂を再現した「大成殿」があり、例年「孔子祭」を開催している。

【学生納付金等に関する情報】

2022 年度学費 http://www.shk-ac.jp/ijc/admission_fee_fee.html

1 年次納入額

単位：円

納付金の種類	入学時納付金	秋学期納付金	年額
入学金	230,000	-	230,000
授業料	340,000	340,000	680,000
設備費	50,000	50,000	100,000
教育充実費	70,000	60,000	130,000
年間諸費	60,000	-	60,000
電算機利用登録料	10,000	-	10,000
合計	760,000	450,000	1,210,000

2 年次納入額

単位：円

納付金の種類	春学期納付金	秋学期納付金	年額
授業料	340,000	340,000	680,000
設備費	50,000	50,000	100,000
教育充実費	70,000	60,000	130,000
年間諸費	60,000	-	60,000
合計	520,000	450,000	970,000

※履修科目によりかかる実習費は別途徴収いたします。

長期履修制度の納入期間については、下記①または②を選択することができます。

①納入期間（2 年間）

単位：円

項目	1 年次納入額			2 年次納入額			3 年次納入額		
	入学時	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計
入学金	230,000		230,000						
授業料	340,000	340,000	680,000	340,000	340,000	680,000	0	0	0
設備費	50,000	50,000	100,000	50,000	50,000	100,000	0	0	0
教育充実費	70,000	60,000	130,000	70,000	60,000	130,000	0	0	0
年間諸費	60,000		60,000	60,000		60,000	0	0	0
電算機利用登録料	10,000		10,000						
合計	760,000	450,000	1,210,000	520,000	450,000	970,000	0	0	0

②納入期間（3 年間）

単位：円

項目	1 年次納入額			2 年次納入額			3 年次納入額		
	入学時	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計	春学期	秋学期	合計
入学金	230,000	—	230,000	—	—	—	—	—	—
授業料	227,000	227,000	454,000	226,500	226,500	453,000	226,500	226,500	453,000
設備費	33,000	33,000	66,000	33,500	33,500	67,000	33,500	33,500	67,000
教育充実費	43,000	43,000	86,000	43,500	43,500	87,000	43,500	43,500	87,000

年間諸費	20,000	20,000	40,000	20,000	20,000	40,000	20,000	20,000	40,000
電算機利用登録料	10,000	—	10,000	—	—	—	—	—	—
合計	563,000	323,000	886,000	323,500	323,500	647,000	323,500	323,500	647,000

※長期履修学生のうち卒業要件となる科目を修了し、3年を経過してなお在学する者については、翌年度の授業料等は免除します。ただし、3年を経過して卒業要件となる科目を未修の者は留年扱いとし、①の2年次の授業料等を徴収します。

【学生支援と奨学金に関する情報】

種 類	要 件	申込方法
いわき短期大学奨学金	・ 本学に在籍する学生で、学業成績、部活動成績、人物ともに優れた者で経済的理経済的な理由により修学が困難な者。	・ 所定の願書に学費負担者と連署の上、必要書類を添えて申し込む。
福島県奨学金	・ 大学に在学している福島県出身の学生で、品行が正しく、学術に優れ能力があり、経済的理由により修学が困難な者。	・ 所定の願書に記載の上、必要書類を添え、大学の証明を受けて申し込む。
あしなが奨学金	・ 保護者等が病気や災害（交通事故を除く）もしくは自死などで死亡、またはそれらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている者。	・ 所定の願書に記載の上、必要書類を添え、大学の証明を受けて申し込む。
平和中島財団奨学金	・ 日本の大学に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ経済的理由により修学に困難がある者。	・ 在籍する大学からの推薦により、書類選考する。
日本学生支援機構	・ 経済的理由により修学が困難な学生。 ・ 人物、健康、学力、家計について総合的に審査し、推薦基準を満たした者の中から学校の選考委員会等で選考し、機構に推薦。	・ 大学の長を通じて、機構理事長に推薦する。